

航空自衛隊百里基地
基地指令 大浦弘容 殿

「F4戦闘機からの部品落下事故」原因の徹底究明と再発防止の申し入れ

マスコミによると、航空自衛隊百里基地は、10月31日（水）、F4戦闘機が飛行訓練中に右側ライトのガラス製レンズ（直径4・5cmの半円球、重さ約18g）が割れ、中の電球（直径1・5cm、長さ4cm、約5g）が落下し、落下した部品は見つかっておらず、被害の報告もないと発表しました。

F4戦闘機は、太平洋上での飛行訓練のため、午前8時45分ころ基地を離陸し、約30分後に着陸、その後の点検で落下が判明したと言います。またライトは飛行時の空中集合の際に、隊形保持の目安となるライトでした。

昨年12月8日には、F15戦闘機が搭載していた模擬ミサイルの先端部を覆うガラス製部品（重さ約70g）を落下事故がありました。この事故は「いたずらに地元住民を不安にさせるので公表しなかった」という非常に不誠実な態度でした。

しかも翌9日には別のF15戦闘機が同じ訓練空域で、垂直尾翼振動を押さえる重量約2kgの「マスバランス」と呼ばれる円筒状のアルミ製部品の一部の落下事故を起こしたのです。

私たちはこれらの事故に対して、「究明された原因やその後の対策について地域住民に公表すること」を申し入れました。県も「原因究明と再発防止」を文書で申し入れています。大浦弘容百里基地指令は「再発防止に努めていきたい」と言明しました。しかし1年も経たないうちにこの再発事故という体たらくです。

事故を起こしても、原因究明やその後の事故対策は全然公表されていない中、戦闘機訓練事故に対する住民の危機感は非常に強くなっています。

いつも申し入れているように、大きな事故はいくつかの小さな事故の対応をないがしろにすることから生じます。万が一にも戦闘機の墜落事故が発生したら、住民が犠牲になる可能性もあります。

地域住民の願いは戦闘機訓練の即時中止です。少なくとも今回の事故原因を徹底究明し、原因が明らかになるまで訓練を停止すべきです。それが、地域住民の不安を解消するための最低限の責任の取り方です。今回の事故に対して厳重に抗議し、以下を申し入れます。誠意を持って対応してください。

記

1. 事故の原因を徹底究明し、具体的な再発防止対策をたてること。
2. 究明された原因やその後の対策について、地域住民はもちろん県民に公表すること。
3. 基地内のすべての戦闘機について、整備点検を徹底して行うこと。
4. 事故原因の究明と再発防止の具体的な対策が明らかになるまで、戦闘機の飛行訓練を再開しないこと。

米軍機来るな茨城実行委員会
百里基地反対同盟